

2026年3月期第2四半期（中間期） 決算補足説明資料

林兼産業株式会社
2025年11月14日

中間連結損益計算書の概要

おいさを
生きるちからに。

(単位：百万円)

	2025年3月期 第2四半期(中間期)	2026年3月期 第2四半期(中間期)	
		実績	前年増減
売上高	24,677	22,369	▲2,307
営業利益	197	787	589
経常利益	367	969	602
親会社株主に帰属 する中間純利益	241	735	494

前年同期との主な変動要因

売上高	養魚用飼料の販売数量が減少したことなどにより減収
営業利益	自社ブランド「霧島黒豚」の農場肥育成績の改善、効率的な養魚用飼料の原料調達および生産性向上による利益率の改善などにより増益
経常利益	営業利益の増加により増益

セグメント別の売上高・営業利益

おいさを
生きるちからに。

(単位：百万円)

	2025年3月期 第2四半期(中間期)	2026年3月期 第2四半期(中間期)	
		実績	前年増減
売上高	24,677	22,369	▲2,307
食品事業	11,018	10,880	▲138
飼料事業	13,637	11,486	▲2,151
その他の事業	21	2	▲18
営業利益	197	787	589
食品事業	▲48	265	313
飼料事業	762	1,067	304
その他の事業	16	▲1	▲18
消去又は全社	▲532	▲542	▲10

中間連結貸借対照表の概要

おいさをい
生きるちからに。

(単位：百万円)

		2025年3月期末	2026年3月期 第2四半期(中間期)末	
				増減
	流動資産	15,325	17,376	2,050
	固定資産	12,307	12,317	10
	資産合計	27,632	29,694	2,061
	流動負債	10,665	12,518	1,852
	固定負債	5,175	4,910	▲264
	負債合計	15,841	17,429	1,588
純資産合計		11,791	12,264	472
負債純資産合計		27,632	29,694	2,061

中間連結キャッシュ・フロー計算書の概要

おいさを
生きるちからに。

(単位：百万円)

		2025年3月期 第2四半期(中間期)	2026年3月期 第2四半期(中間期)	
				前年増減
	営業活動によるキャッシュ・フロー	▲2,696	▲2,508	188
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲24	▲170	▲146
フリー・キャッシュ・フロー		▲2,721	▲2,679	41
財務活動によるキャッシュ・フロー		1,603	1,369	▲233
現金及び現金同等物の増減額		▲1,118	▲1,308	▲189
現金及び現金同等物の期首残高		2,501	3,146	644
現金及び現金同等物の中間期末残高		1,383	1,838	454

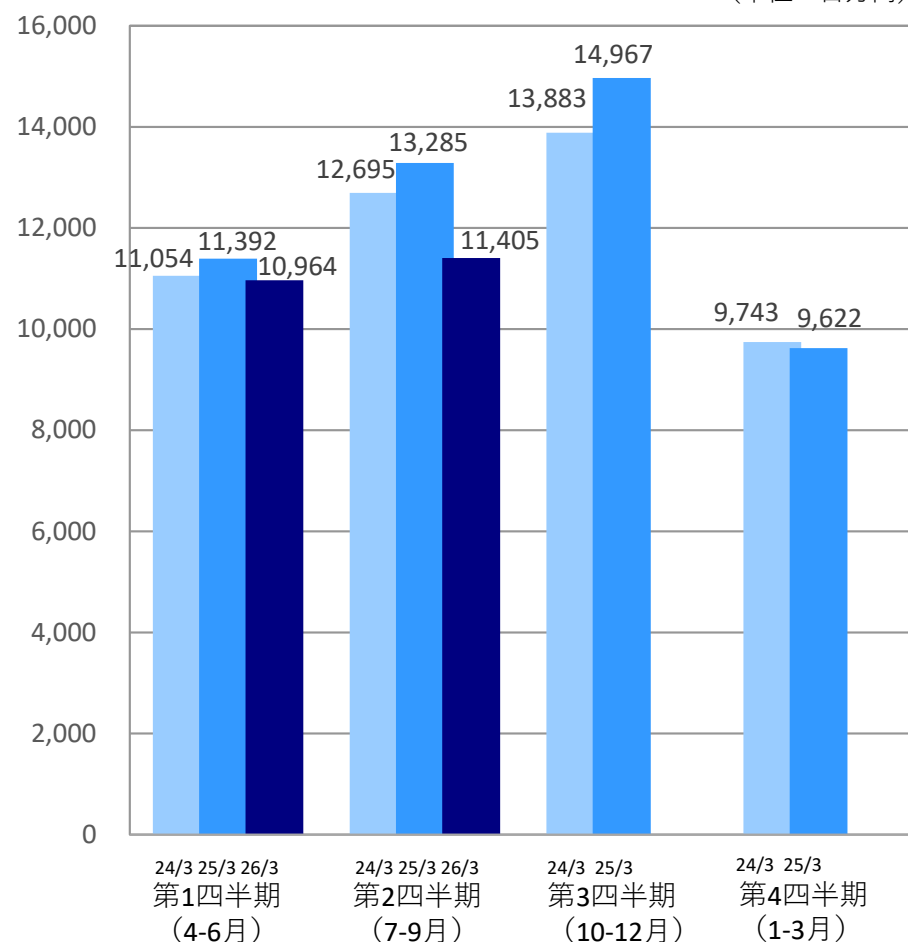
四半期連結業績の推移（売上高・営業利益）

おいさを
生きるちからに。

四半期売上高の推移

■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期 ■ 2026年3月期

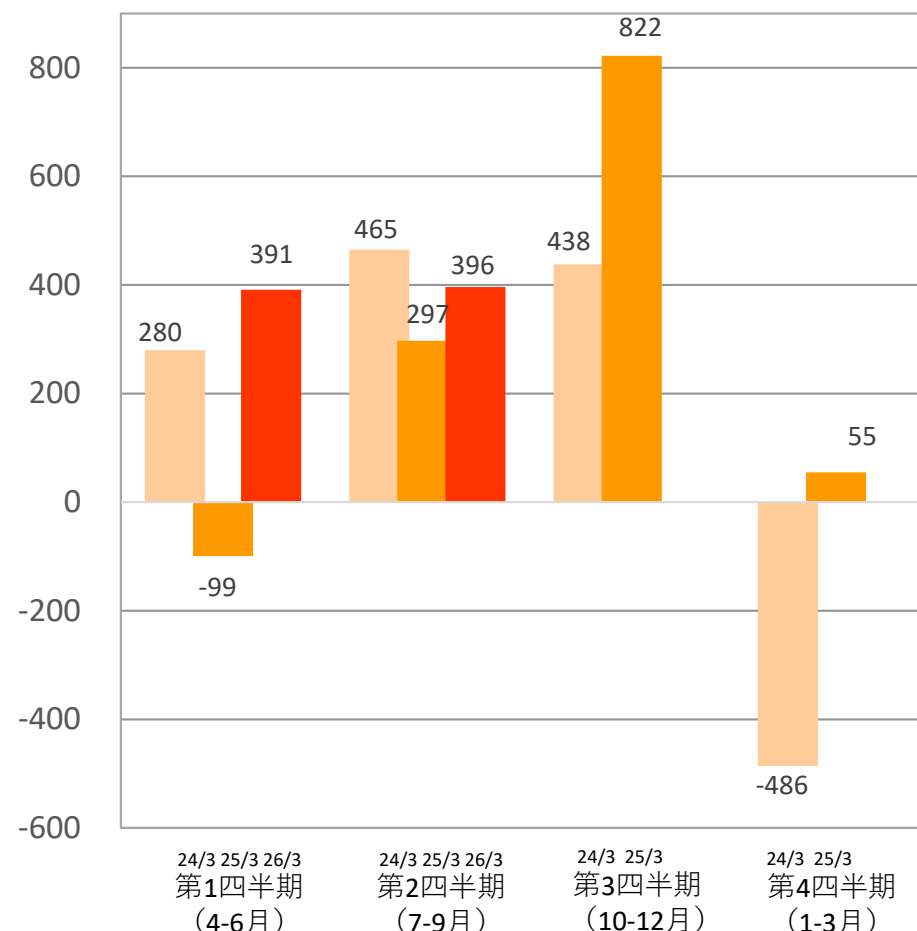
（単位：百万円）



四半期営業利益の推移

■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期 ■ 2026年3月期

（単位：百万円）



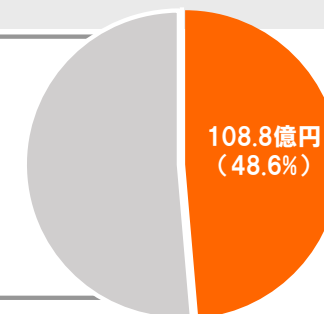
セグメントの状況（食品事業）

おいしさを
生きるちからに。

概況：収益性を重視した取引に努め、販売数量が減少したことなどにより減収。
自社ブランド「霧島黒豚」の農場肥育成績の改善などにより増益。

食品事業

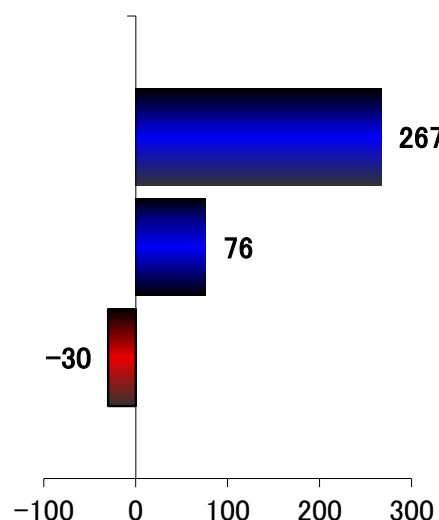
売上高 108億80百万円（前年同期比 1.3%減）
営業利益 2億65百万円（前年同期 ▲48百万円）



営業利益の増減要因

営業利益の増加 3億13百万円

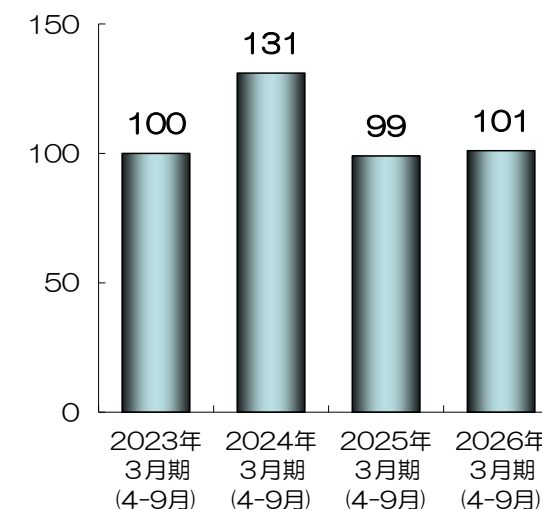
（単位：百万円）



霧島黒豚の肥育成績の改善など
加工食品および機能性素材の価格改定
による収支改善など
製造費および販管費増加による悪化

機能性素材の販売数量推移

（2023年3月期(4-9月)を100とする）



セグメント施策の進捗状況（食品事業）

おいしさを
生きるちからに。

食品事業

施策

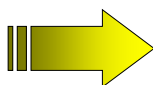
状況

〈機能食品部門〉

機能性素材の海外強化

新規機能性素材の開発

介護食 法人向け



・4月にハラール認証を取得し、タイ向けエラスチンの販売好調

・脳機能改善素材を10月より販売開始

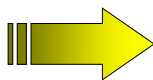
・「ソフト食魚シリーズ」、「減塩ベーコン・ウインナー」、「やわらくマルシェシリーズ」採用拡大

〈加工食品・食肉部門〉

自社ブランドの展開

加工食品の海外開拓

販売チャネルの多角化



・霧島黒豚入り魚肉ソーセージの販売開始

・新規開拓に向けて海外向け展示会へ参加

・近畿、東海地区の取組強化

・ふるさと納税市場への販売拡大

（前年同期比 売上高 下関235.7%増 都城112.0%増）

セグメントの状況（飼料事業）

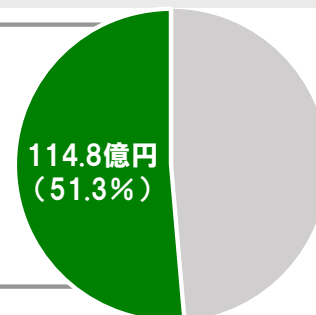
おいさを
生きるちからに。

概況：養魚用飼料の販売数量が減少したことなどにより減収。

効率的な養魚用飼料の原料調達および生産性向上による利益率の改善により増益。

飼料事業

売上高 114億86百万円（前年同期比 15.8%減）
営業利益 10億67百万円（前年同期比 39.9%増）



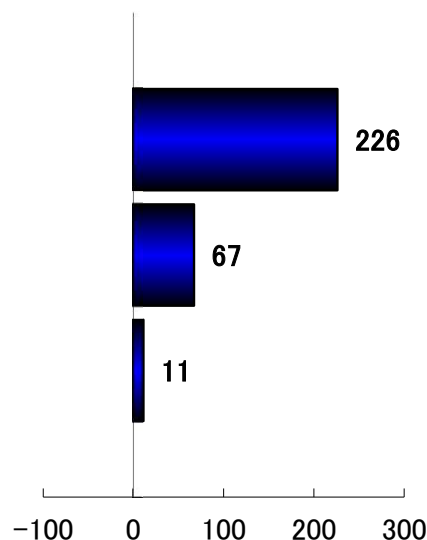
営業利益の増減要因

営業利益の増加 3億4百万円

養魚用飼料の海外向け販売数量推移

(2023年3月期(4-9月)を100とする)

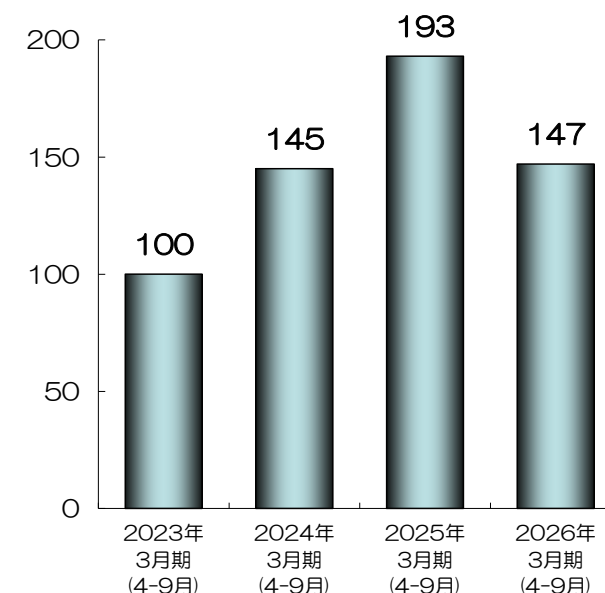
(単位：百万円)



効率的な養魚用飼料の原料調達および
生産性向上による利益率の改善

生産数量減少に伴う費用の減少

水産物のうち鰻の新事業所稼働に伴う
利益拡大



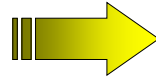
セグメント施策の進捗状況（飼料事業）

飼料事業

施策

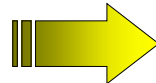
状況

養魚用飼料の
国内・海外へ販売拡大



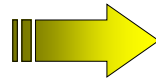
- ・国内 ブリの養殖尾数減少により販売数量減少
- ・海外 養殖魚価格低迷により販売数量減少

生産性向上



- ・ボイラ設備更新によるエネルギー原単位の改善
- ・生産アイテムの集約・削減による生産効率の改善

難治性魚病の
研究と生産者サポート



- ・業界トップクラスの魚病研究所による難治性魚病の研究と獣医師による感染拡大防止を目的とした訪問診療を実施
(主な診療内容)
- ・トラフグのヤセ病対策(特許取得)
- ・真鯛のエドワジエラ症対策(特許申請中)
- ・ブリ類のミコバクテリウム症対策(実証実験中)

中間連結損益計算書

おいさを
生きるちからに。

(単位：百万円)

	2025年3月期 第2四半期(中間期)		2026年3月期 第2四半期(中間期)		前年増減		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	
売上高	24,677	100.0%	22,369	100.0%	▲2,307		
売上原価	22,213	90.0%	19,277	86.2%	▲2,936	▲3.8%	
販売費及び一般管理費	2,266	9.2%	2,304	10.3%	38	1.1%	
営業利益	197	0.8%	787	3.5%	589	2.7%	
受取配当金	70		71		1		
その他	158		169		10		
営業外収益合計	229		241		12		
支払利息	48		49		1		
その他	11		9		▲1		
営業外費用合計	59		59		▲0		
経常利益	367	1.5%	969	4.3%	602	2.8%	
特別利益合計	137		87		▲50		
特別損失合計	1		2		1		
税金等調整前中間純利益	503		1,055		551		
法人税等合計	262		319		57		
親会社株主に帰属する中間純利益	241	1.0%	735	3.3%	494	2.3%	

通期見通し

おいさをい
生きるちからに。

(単位：百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期			
		第2四半期(中間期)実績	前年増減	通期計画	前年増減
売上高	49,267	22,369	▲2,307	48,000	▲1,267
営業利益	1,076	787	589	950	▲126
経常利益	1,363	969	602	1,150	▲213
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,055	735	494	800	▲255

2026年3月期 通期の見通し

国際情勢を背景とした原材料価格やエネルギーコストの高騰、為替相場リスクや海外景気の下振れなど、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続くと考えられます。こうしたなか、当社グループの当中間連結会計期間の業績は概ね予想どおりに推移していることから、2025年5月15日に発表した通期の業績予想に修正はありません。今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

配当の状況

おいさを
生きるちからに。

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 25.00 (普通配当15.00) (特別配当10.00)	円 銭 25.00 (普通配当15.00) (特別配当10.00)	百万円 211	% 20.3	% 1.9
2026年3月期	—	—						
2026年3月期(予想)			—	15.00	15.00		15.3	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先 林兼産業株式会社 総務部 TEL 083-266-0210
IRサイト <https://www.hayashikane.co.jp/ir/>

「生きる力」を生み出す食糧品メーカーである林兼産業は
食の可能性をひろげる商品を生み出すことで
誰もが幸せに生きられる未来をつくるために活動します。

おいしさを、生きるちからに。

